

自己評価報告書

平成23年 4月10日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520162

研究課題名（和文） 定家本源氏物語・伊勢物語の本文成立史に関する横断的研究

研究課題名（英文） Cross-sectional study of generation process about Fujiwara-Teika edition "The tale of Genji" and "The tale of Ise"

研究代表者

加藤 洋介 (KATO YOUSUKE)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：00214411

研究分野：日本平安文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：源氏物語、伊勢物語、定家本、本文

1. 研究計画の概要

本研究は、池田亀鑑『源氏物語大成』の青表紙本校異および池田亀鑑『伊勢物語に就きての研究 校本篇』・大津有一『伊勢物語に就きての研究 補遺篇』・山田清市『伊勢物語校本と研究』という伊勢物語の三校本の補訂および増補作業を基盤とする。その作業の過程において、本文変化の様相や音便・表記といった点について、定家本伊勢物語における本文変化を時系列上で捉え、もってそれを定家本源氏物語の検証へと資することを目的とする。この研究目的を遂行するため、上記の校本所収伝本の調査および収集を行ない、補訂および増補作業を実行する。

2. 研究の進捗状況

上記の研究計画のもと、『大成』青表紙本校異については、定家自筆本や明融本が現存する巻での補訂および増補作業をほぼ終えることができた。また伊勢物語については、上記の三校本所収伝本の9割程度の伝本について補訂作業を終えることができた。

その過程で得られた研究成果として、学会未紹介の新出資料である角屋保存会蔵源氏物語末摘花巻についての調査結果をまとめた。鎌倉時代後期の書写にかかる角屋本は、『大成』所収の陽明文庫本と同系統の本文をもつものの、一方で多くの異文を有しており、そこから鎌倉時代あるいは平安時代に溯る物語書写の具体的様相を窺い知ることができる貴重な資料であることを明らかにした。また定家本(青表紙本)系統の伝本として、現在最も尊重されている大島本について、その用字や改行といった細微な異同に注目するところから、大島本が定家自筆本系統の本から直接書写されたものではなく、肖柏本・書

陵部三条西家本・大正大学本といった室町期書写の伝本に、定家自筆本系統の本文を校合することで成立したのではないかとの新見を得るに至り、学会発表を行った上で論文として取りまとめた。これは定家本伊勢物語の書写のありようから着想を得たものであり、本研究が目的とする源氏物語と伊勢物語との横断的研究による成果である。

またこの研究期間に初めて公開された飯島本源氏物語についても、調査対象に加えた。この飯島本は奥入を付載する巻を含み、また明融本などと表記や傍記漢字を共有するなど、定家本源氏物語を復原する上で貴重な本であるとの知見を得た。これについても学会発表を行った上で、論文として取りまとめることができた。

伊勢物語についても、新出の坊所鍋島家本が伝肖柏筆本・伝心敬筆本と表記の点で非常に類似していることを指摘し、本文異同のみならず表記においても、同一系統の伝本において継承される事例のあることを紹介する論文を発表した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

『大成』青表紙本校異および伊勢物語三校本の補訂および増補作業については、概ね当初の計画通りに進めることができた。源氏物語は54帖という長大な作品であるため、定家自筆本や明融本の現存する巻を中心に20帖程度の巻について作業を終えた。伊勢物語では校本所収の伝本の9割程度について、必要な調査を終えている段階にある。

定家本の源氏物語・伊勢物語について、本文異同だけでなく、表記や改行に注目するこ

とで本文成立の状況を窺うという発想が有効であることは、これまでの学会発表や論文によって十分に示すことができたものと思われる。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの研究成果によって検証してみると、『大成』や伊勢物語三校本に所収されている伝本だけではなく、これらに未収の室町期書写の伝本群に関する収集と調査が不可欠であることを痛感している。源氏物語の場合において、もっとも重視されている大島本（古代学協会蔵）についても、やはり他の室町期書写本を視野に入れなければ見えてこない問題がある。これが今後の研究を推進する上での大きな課題である。

幸いなことに本研究課題の最終年度の前年度申請により、新たに「定家本伊勢物語・源氏物語の形成と展開に関する総合的研究」が採択された。これにより校本未収の定家本伊勢物語・源氏物語について、室町期書写本の収集と調査を進め、『校本 伊勢物語』（仮称）および『定家本源氏物語校異集成』（仮称）の刊行を目指し、合わせて定家本伊勢物語・源氏物語の本文成立と展開の諸相を検討する研究へと展開させていく予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

①加藤洋介、奥入付載の定家本源氏物語一飯島本藤袴巻の場合一、『詞林』、48号、34～47、2010年、査読無

②加藤洋介、角屋保存会蔵 源氏物語末摘花巻一解題と影印・翻刻一、『角屋研究』、18号、15～60、2009年、査読無

〔学会発表〕（計4件）

①加藤洋介、奥入付載の定家本源氏物語（二）一飯島本藤袴巻を中心に一、中古文学会関西西部会 第二十六回例会、2010年9月11日、大阪大谷大学

②加藤洋介、定家本源氏物語研究の可能性、名古屋大学国語国文学会 春季大会シンポジウム、2010年7月10日、名古屋大学

③加藤洋介、藤原定家の土左日記書写一尊経閣文庫蔵本をめぐって一、中古文学会秋季大会、2009年10月4日、関西大学

④加藤洋介、大島本源氏物語の本文成立事情一若菜下巻の場合一、中古文学会関西西部会第十九回例会 源氏物語千年紀記念シンポジウム、2008年6月7日、京都文化博物館

〔図書〕（計3件）

①加藤洋介、竹林舎、『伊勢物語 享受の展

開』（山本登朗編）のうち「室町期『伊勢物語』書写の一樣相一伝肖柏筆本・伝心敬筆本・坊所鍋島家本の三伝本をめぐって」、2010年、8～30頁

②加藤洋介、和泉書院、『大島本源氏物語の再検討』（中古文学会関西西部会編）のうち「大島本源氏物語の本文成立事情一若菜下巻の場合一」、2009年、167～208頁

③加藤洋介、和泉書院、『皇統迭立と文学形成』（大阪大学古代中世文学研究会編）のうち「仙源抄の定家本源氏物語」、2009年、305～320頁